

大震災が映す日本社会

教養講座

令和3年5月20日(木)～7月15日(木) (計7日間9時間20分)

〈講座概要〉

2011年3月11日の東日本大震災・原発震災の発災から11年目となりました。この間、熊本や大阪などでの地震被害、国内各地での豪雨、台風被害が続いています。実態把握、原因究明、被災者支援、再発防止はどこまで進んだのでしょうか。新しい連帯、支援活動も生まれています。事例を各回で掘り下げながら、自然災害が映し出す日本社会の現実をみつめ、社会力アップの道筋を議論していきます。

募集定員	20名
受講対象者	一般市民
実施場所	五福キャンパス共通教育棟B棟2階 B21番教室
受講料	6,300円
テキスト	なし
申込方法	受講申込書に記入のうえ、①直接持参、②郵送、③FAXまたはE-mailで申込みのいずれかを選択して下さい。 なお、申込み者が募集定員を超えた時点で締め切らせていただきます。
申込期限	～令和3年5月10日(月)まで
申込み・問合せ先	〒930-8555 富山市五福3190番地 国立大学法人富山大学研究振興部社会貢献課 TEL (076) 445-6956 FAX (076) 445-6033 E-mail: lifelong@ctg.u-toyama.ac.jp

〈講座内容〉

回数	期日	時間	題目	講師氏名	所属・職名
1	5月20日(木)	19:00～20:20	あのとき大川小学校でなにがおこったのか—究明続く津波被災困	林 衛 藤田公仁子	人間発達科学部・ 准教授 地域連携推進機構・ 教授
2	5月27日(木)		被災者支援のNPOの活動から学ぶもの		
3	6月3日(木)		原発震災は何を奪ったのか—被災者置き去りの構造		
4	6月17日(木)		公害反対運動、被爆者原爆症認定訴訟の遺産はいかせているか		
5	7月1日(木)		ダムは洪水を激甚化しているのか—気象災害減災に向けて		
6	7月8日(木)		被災地で展開されるNPOと行政の協働した支援活動		
7	7月15日(木)		「人間を守れない」日本社会の改め方—産官学法報への市民力		

〈備考〉

- ①本講座を修了した人には、富山大学から修了証書を授与します。
- ②本講座は県民カレッジと連携しています。また、本講座の修了者は希望により、県民カレッジから5単位が認定されます。